



【東部振興局管内】 椎茸普及指導情報 第44号

第8回東部地区乾椎茸品評会は皆様のご協力のおかげで、無事盛況に終わることができました。ありがとうございました。後のページでご紹介させていただきます。
これから暑い時期に入ります。作業されるときは熱中症などに十分注意して下さい。

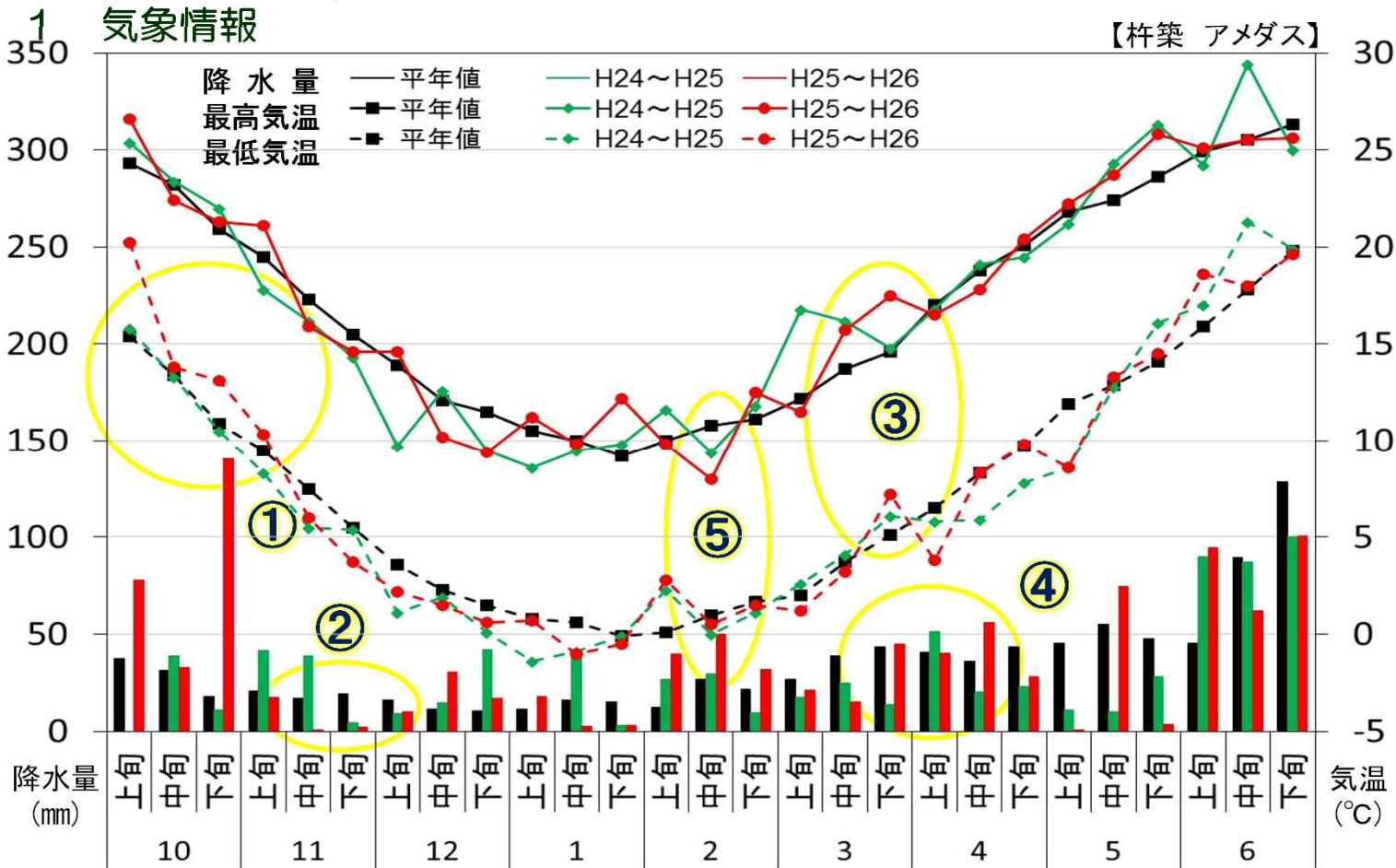


図1 旬別気温及び降水量(杵築)

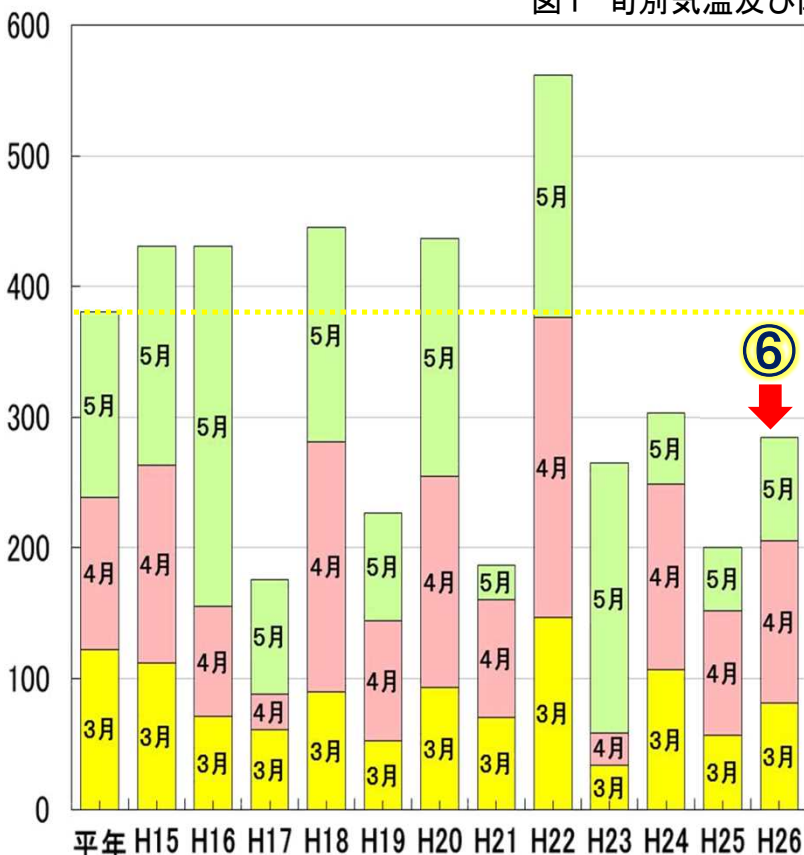


図2 初期活着及び伸長期における降水量

◆今期の発生状況

秋子については、最低気温が11月上旬まで高めに推移したこと(図1①)と、11月中旬下旬の降水量が少なかったため(図1②)、不作となったところが多かったようです。

3月中旬以降の気温は平年より高く(図1③)、雨が降る日が多い(3月の降雨日数は14日)気象条件(図1④)であったことに加え、2月中旬の大雪の影響を受けたこと(図1⑤)もあり、特に標高が高めで、3月中旬以降に発生ピークを迎えた地域を中心に良品採取が非常に難しい年となりました。このような中、各地区や県で開催された品評会においても天白がかなり少なく、また全体の出品数も昨年より少ないものとなりました。

◆初期活着期の降水量について

4月までの降雨量は平年並でしたが、5月は平年よりも少ない状況でした(図2⑥)。気象庁が発表している6月の予報は、降雨量が少ない確率は40%、平年並40%、多い確率20%、7月の予報は、降雨量が少ない確率は20%、平年並40%、多い確率40%となっています。気温は高くなるので笠木のチェックをしっかり行い、日焼けしない、蒸れないようにほだ木を管理しましょう。

2 きのごグループにおける固定品種栽培試験発生状況（旬別発生量と累計発生量）

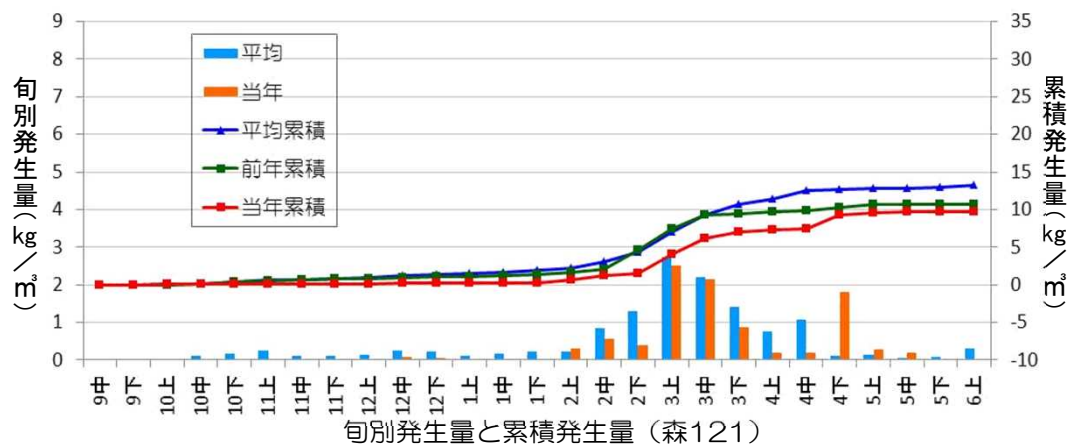
横軸は9月からの発生シーズンを旬ごとに示しています。左側の縦軸は、棒グラフで、ほだ木材積1m³当たりの旬別発生量(kg)で、平均値と当年の発生量を表示しています。なお、発生量は1代あたりです。

右側の縦軸は、折れ線グラフで、ほだ木材積1m³当たりの累積発生量(kg)で、平均値、前年、当年のデータを表示しています。発生量は1代あたりです。棒グラフは、人工ほだ場と林内ほだ場の発生量の平均値で示しています。なお、発生段階での水分管理は行っていません。

森121

1月下旬までの収穫量は全くありませんでした。2月に入ってから少しずつ発生が確認されましたが、全体としての収穫量は少ない傾向にありました。

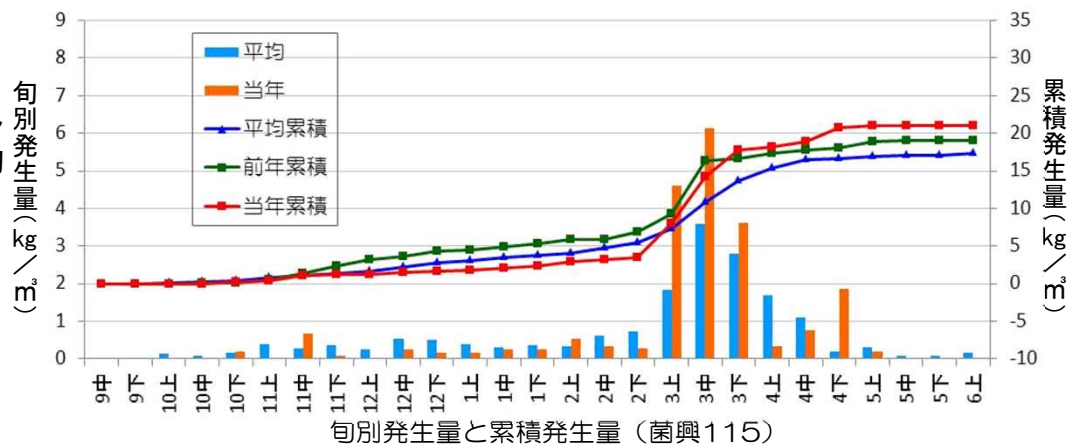
累計は平均値の74%、昨年比92%でした。



菌興115

3月に集中発生し、収穫量は平年値の2倍程度となり、今シーズンは豊作の年となりました。2月中旬の大雪と3月中旬以降の温度上昇、適度な降雨が発生に大きく影響したようです。

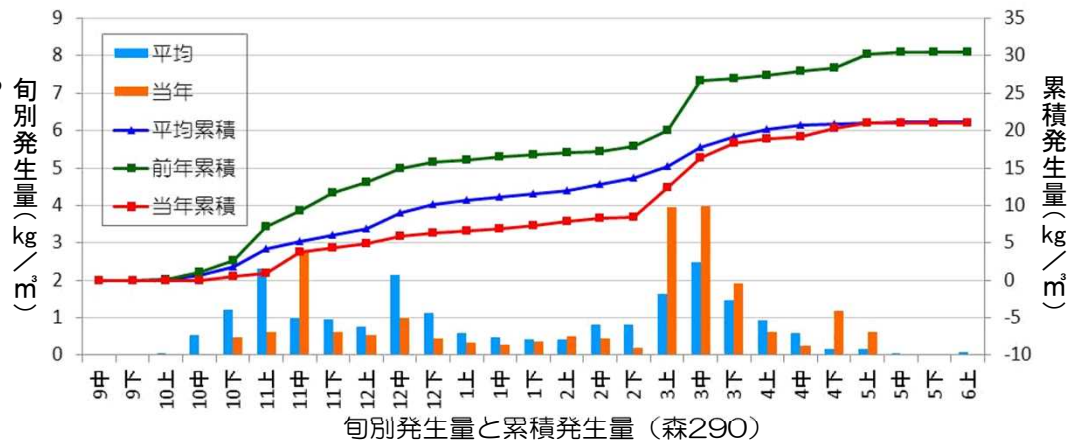
昨年秋以降の発生累計は平年値の121%、昨年比110%でした。



森290

10月中はなかなか気温が下がらず、秋子の発生は10月下旬から、ピークは11月中旬となりました。秋子の不作により2月までの累積発生量は平年値を下回っていましたが、3月に集中発生したため累積発生量は平年並みとなりました。

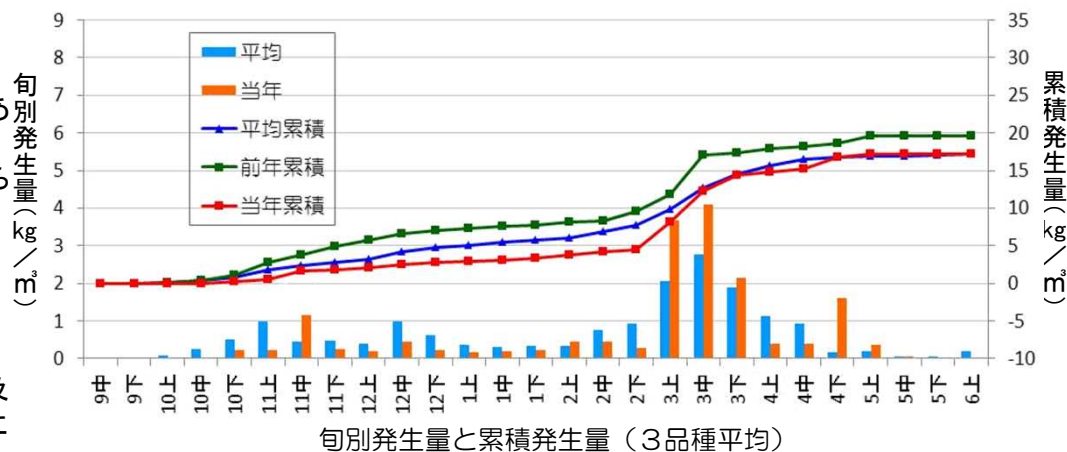
発生累計は平年値の100%、昨年比72%でした。



3品種平均

秋子の不作の影響から2月下旬までの発生累計は少ない傾向にありましたが、3月中は集中発生し、4月下旬にもまとまった発生がみられたことから、今シーズンの発生累計はおおむね平年並みとなりました。

昨年秋以降の発生累計で見ると、115のみが平年と比較して多い結果になりました。一方、121及び290は昨年より少ない収穫量になりました。



3 ほだ化初期管理について

今年の九州北部地域の梅雨入りは、昨年よりも6日遅く、平年よりも3日早い、6月2日頃となっています。

◆本伏せ中の管理

・直射日光が強くなってきています。笠木の量をチェックしましょう。

→ほだ木がちらちら見える程度になるまでかけましょう。

(笠木がしんなりとしている状態で30~40cmの厚さが目安)

ほだ木の小口がよく見える場合は、両端の笠木を補充しましょう。特に西日が当たらないように注意しましょう。

・人工被陰材(遮光ネット等)を使用している場合は、ほだ木から**最低15cmは隙間を開けましょう。**

遮光率は75%程度のものがおすすめです。

また、“より”があるものの方が雨通りが良いのでおすすめです。

→**直接ほだ木に掛けると高温障害を受け、しいたけ菌が死んでしまうことがあります。**

・強風の後には笠木をチェックし、飛ばされている場合は補充しましょう。

→笠木が足りない場合は、周囲の雑木や人工被陰材も活用しましょう。

【参考】昨年実施した活着調査結果について…

仮伏せの有無等伏せ込み方法の違い箇所を中心に調査させていただきました。

ご協力いただいた生産者の皆様、大変ありがとうございました。

◆調査箇所: 10箇所

裸地伏せ(伐採地に伏込) : 仮伏せ有り+笠木、仮伏せ無し+笠木

〃 (移動させて伏込) : 仮伏せ無し+遮光ネット

林内伏せ: 井桁伏せ

棒積み+1年起こし

◆調査方法: 年3回(7月、11月、3月)に活着、伸長状況を調査した。

◆調査結果

①仮伏せの効果

・7月の調査結果から初期活着について一定の効果がみられたが、日当たりが良い尾根部で植菌時期が遅くなった現地は、一部不活着となっているところも見られた。

また、斜面下に池がある現地や谷部、林内などは仮伏せなしでも初期活着は良好であった。

→仮伏せは初期活着を促す上で効果はあるが、伏せ込む現地環境によっては植菌時期や方法(できるだけ直射日光を当てない、玉切りしたまま放置しない等)の配慮が必要。

②遮光ネットの活用

・ほだ木上部を覆い風通しが悪くなっていた現地は、11月以降の調査でトリコデルマの発生が確認された。

→伏込地の環境や天候の状況にもよるが、列間を広めにとる、列の横側をできるだけ覆わないようするなどの配慮が必要。特に水はけが悪い土地や風通しの悪い現地は注意が必要。

③棒積みの注意点

・棒積みのままの現地については、7月調査時の伸長状況は良好。

ただし、林内に棒積みしていたほだ木はクロコブタケ等の害菌が発生。

11月以降の調査ではトリコデルマの発生が確認された。

→棒積みのままになっているほだ木は、早めのほだ起こしは必須。

害菌が広がる前に環境を変えること。

④その他

・アカハラコブカミキリ等に加害されたほだ木は、その穿孔箇所に水が溜まりトリコデルマが発生しているものがあつた。

また、カミキリムシに加害されたほだ木は3月の調査時においても菌の伸張が悪いものが多かった。

・昨年は8月上旬までは比較的雨が少なく高温であったため、乾燥気味の現地が多かったが、8月下旬から9月上旬にかけてまとまった雨が降り、かつ高温であった事から、それまで蒸れやすい環境にあつたほだ木に一気に湿性の害菌が発生したところが見られた。

→天候に変化があつた場合は、伏込場の確認を行いましょう。



仮伏せ有りの現地(左は不活着)



林内伏せの現地(駒に害菌が付着)



棒積み現地(表面にトリコデルマ)



遮光ネットで覆っていた現地(穿孔痕にトリコデルマ)

4 第8回東部地区乾椎茸品評会について

日時：平成26年4月23日(水)
 場所：杵築市大田庁舎
 参加人数：100名
 内容：表彰式、講演会
 (講師：椎茸農協 阿部組合長)

品柄	出品数	優等賞	1等賞	2等賞	3等賞	努力賞
どんこ	77	1	2	5	7	10
こうこ	103	1	3	6	10	13
こうしん	14	1	1	1	1	1
計	194	3	6	12	18	24



展示会場

今年は2月の大雪と、3月以降の高温多雨の影響により、標高の高い地域を中心に良品採取が非常に難しい状況にありました。品柄も天白系のものが非常に少なく、どんこが特に少なかったようです。しかし、出品された品物は例年と変わらず良いものであり、生産者の皆様の意識の高さを改めて感じました。

また、「乾しいたけの今後の展望と新規事業について」と題した講演会は、椎茸農協の阿部組合長に、販売促進への取り組みや、今年行われる基金事業についてお話をいただきました。

たくさんの皆様のご参加、ありがとうございました。全国品評会入賞を期待しています。



表彰式

5 研修のご案内

今年も新規参入者の方を対象とした研修会を実施します。ご近所で椎茸栽培を始める方、始めて間もない方がおられましたらご紹介ください。

対象者	研修名	内容【期間】	申込期限
全く初心者の方	しいたけ新規参入者研修 (栽培基礎研修)	4日間【H26年度】 基礎的な講義と実習	H26. 7. 31(木)
本格的な就業を 考えている方	しいたけ新規参入者研修 (生産現場通型研修)	12日間【H26年度】 既存生産者の元で一連の作業を実習	

6 その他

◆消費拡大について

今年度はご周知のとおり、大分県で7億8千万円程度の国庫補助事業の予算を計上しています。この中には、消費拡大にかかるメニューも含まれており、この機会により乾しいたけの消費に力を入れていく予定です。

この事業は平成26年度の単年度事業で、今年度のみしか使えないものとなっています。皆さんからもよいアイデアなどございましたら、各普及員まで連絡をお願い致します。

※実施予定の消費拡大対策

- ・販路開拓(デパート、社会福祉施設、企業等へ)
- ・商品開発(パスタソース、スープ等)
- ・普及宣伝(テレビCM等、消費拡大月間の各地イベント)



◆補助事業について

今年度のみですが、原木と種駒について椎茸農協が事業主体となり助成を行う予定です。

本事業を活用できる生産者の方々は、早めに伐採地を確保いただき、積極的に使っていただきたいと思います。なお、事業の詳しい内容については、椎茸農協までお問い合わせ頂くようお願い致します。



大分県東部振興局 農山漁村振興部 林業・木材・椎茸班
 担当：宮本(国東市エリア) 伊藤(別府市杵築市日出町エリア)
 TEL：0978-72-0156 FAX：0978-72-3697